

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26008

実態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◆児童アンケートの結果から（学力テスト・学校アンケート等） ○「自分の意見を進んで発言しようとしている。」（学ア 80%） ○「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。」（学ア 88%） ○「振り返ったことを、次の学習に生かそうとしている。」（学ア 89%） ○学校全体で本来の力を発揮しきれていない児童の割合が減少。（26%→19%） ◇児童アンケートや教職員アンケートの結果から、主体的に学びに向かおうとする姿勢が育ちつつあると捉える。 ◇学習の振り返りから学習内容・学習に向かう姿勢を見つめ直し、次の学習に生かしていることがうかがえる。	◆児童アンケートの結果から（学力テスト・学校アンケート等） ○「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどのくらいの時間勉強しますか。」（全7 全比▼） ○「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」（学ア 76%） ○学年によっては、標準偏差（SD）が10より大きく、学力の二極化が見られるところもある。（学テ） ◇授業では、意欲的に参加したり、前向きに交流する様子は見られているが、家庭で自ら学習したり、読書したりする姿には至っていないのが実情である。 ◇学び合いの場では意欲的に発言するが、日常生活の場では思いを伝え切れていない姿がある。 ◇家庭での学習を含め、基礎的・基本的な学習の着実な習得に向けて課題がある。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇共通指標アンケートで、「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関連する項目について、肯定的な回答の割合が高い。児童会活動・行事・学習場面では自己肯定感を高める姿が見られる一方で、休み時間や放課後など日常生活では個々のよさを十分に発揮しきれていない面もある。 ◇「認め合い」をキーワードに学校づくりを進めているところである。随所にその指導が浸透しつつある。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的に学びに向かい、認め合い、高め合う子ども

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	* 「道徳」の授業づくりを軸とした授業力向上 * 自分の考えを進んで話したり、友達の考えを聞いて深めたりする力を高める教師の関わりや場の設定	* 子どもが素直に思いを伝えることができる学級風土づくり * 自治的な学級活動の充実 →児童が主体となり、課題解決に向かう * パートナー校と連携を図った活動の推進
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	○「端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。」（Iア 86%） ○「端末を使うことで、勉強がおもしろい、楽しいと思うことがある。」（Iア 92%） 効果的な ICT 機器の活用を推進するとともに情報教育カリキュラム・情報モラル指導計画の作成・運用を行っていく。	

<本プログラムの実行に向けて>



